

第3回宝塚市手話言語施策推進会議

日時：平成30年2月15日（木）18：30～20：50

場所：宝塚市役所3階 3-3会議室

【次第】

- 1 平成29年度実績及び平成30年度実施事業（手話関連）の状況報告と今後について
- 2 啓発について
- 3 宝塚市手話言語発表会について
- 4 その他

【配布資料について】

- ・資料 宝塚市手話言語施策推進会議委員名簿
- ・資料1 第1回宝塚市手話言語発表会について
- ・資料 第2回宝塚市手話言語施策推進会議議事録

【出席者】

委員 宝塚ろうあ協会 手話対策部 加藤 めぐみ
宝塚市難聴言語障害児親の会 理事 西田 恵津子
宝塚市手話サークル連絡会 会長 田中 準子
宝塚市教育委員会事務局 学校教育室特別支援教育担当 課長 紀谷 貴美子
関西学院大学人間福祉学部非常勤講師 平 英司

(庁内関係者) 酒井健康福祉部長、他

【欠席者】

宝塚市身体障害者福祉団体連合会 会長 志方 龍
宝塚商工会議所 中小企業相談所 所長 胡中 美伸

※順不同

【協議録】

(事務局)

平成29年度実施事業（手話関連）の実施状況報告と今後に向けてレジメに従って進めていく。

(事務局)

施策推進会議の名簿の中で、障がい者団体の志方さんが欠席。事業主の宝塚商工会議所の浅尾さんが退職の関係で胡中さんに交代で本日は欠席。第3回宝塚市手話言語施策推進会議レジメの表題について、平成29年度は第1回目の会議となるが、ホームページに合わせて、累計で第3回という名称に表記を統一する。資料1は第1回宝塚市手話言語発表会についての内容をまとめている。続けて、第2回宝塚市手話言語施策推進会議の議事録、

本会は宝塚市手話言語条例を推進し、当時の社会福祉審議会の臨時委員の方にも来ていただいている。進行は志方委員だが、本日はご欠席のため加藤委員にお願いする。

(委員)

初めてなので、漏れがあるかもしれないが、どうぞよろしく。平成29年度実績の内容を読んだ後に、疑問、意見、質問などを行う。

(事務局)

議事(1) 平成29年度実績及び、平成30年度実施事業(手話関連)の状況報告と今後について

① 市民向け

平成29年度は、手話奉仕員養成講座初級を昼と夜、手話奉仕員養成講座中級を昼と夜、手話通訳者養成読み取り講座を昼と夜、手話検定試験対策講座を8月29日から6回、手話通訳者統一試験対策講座を9月12日から6回、トータルコミュニケーション講座を初級と中級と開催。平成30年度も同じ内容で実施したい。

② 市職員向けについて

平成29年度は新任職員研修、職員研修として保育所、図書館、職員研修初級編、ステップアップ編を行った。参加人数は250名ほど。宝塚市歌の練習を10回行った。150名ほど参加。平成30年度も同じ内容で実施したい。

③ 学校向けについて

平成29年度は手話学習を小学校、中学校、高校でそれぞれ行った。平成30年度も同じ内容で実施したい。

④ 事業所向けについて

平成29年度、まだ実施できていない。

⑤ 書籍について

平成29年度は「わたしたちの手話学習辞典」を小学4年生の全クラスと中学校の図書館に、全部で80冊を配布した。

⑥ まちづくり協議会など地域からの依頼について

平成29年度は手話講座を4回実施。平成30年度も継続したい。

(2) 啓発について

①パンフレットについて

平成29年度はパンフレットを3万部印刷し、小学4年生～中学3年生まで配布。医師会、歯科医師会、薬剤師会、商工会議所等へも配布。平成30年度も継続していきたい。

②ホームページの整備について

平成29年度「手話」の 카테고리を新設。「宝塚市」から入ってもらえば見られる。YouTubeの「知ってよ!宝塚」3月号で12月に行った第1回宝塚市手話言語発表会を放映予定。平成30年度に向けても提案したい。

(3) 宝塚市手話言語発表会について

昨年12月3日(日)11時から16時まで小林駅近くの西公民館において開催。参加者17組。内訳は手話スピーチ4組、手話歌9組、手話劇4組。出演参加者数135名。来場者数180名程度。感想を記載しているので読んでほしい。また、資料1の最後にアンケートも添付している。

(委員)

(1) について

平成30年度も同様に実施する予定なのか。

(事務局)

平成29年度は手話奉仕員養成講座初級・中級・読み取り講座をそれぞれ昼と夜を年に2回、春と秋に開催した。参加者の生活スタイルに応じて、参加しやすいよう昼と夜がある。異存がなければ今まで通り、春と秋に開催したい。

(委員)

継続でいい。他に、手話通訳者養成講座の開催を希望する声があるが、それについてはどう考えているか。手話通訳者の高齢化を考えると活動できる人数が心配。若い手話通訳者を育てるためにも、ろうあ協会としては手話通訳者養成講座が必要だと考えている。

(事務局)

手話通訳者養成講座Iは全部で36回。健聴講師、ろう講師合わせて60万円の予算がある。今年度は予算が捻出できていない。事業を実施するには予算が必要。手話通訳者養成講座の受講者が最低でも10人ぐらいはほしい。要約筆記者養成講座は現在3名の受講生だが実施している。登録者数を考えると少人数であっても開催する必要がある。手話も現状を考えると実施しなければならない状況に置かれているが、再来年の予算に反映できないか思案中である。

(委員)

今開催しているのは奉仕員養成で初級、中級講座だ。手話のすそ野を広げる意味ではいいが、プロの手話通訳者を養成するには足りない。ろう者にとっては、手話通訳者の十分な人数、質の良さは重要だ。通訳者の高齢化は心配な状況。宝塚市もその危機感があることはわかっていると思う。予算の問題で平成30年度は無理なことはわかる。平成31年度以降、プロの手話通訳者を養成するための講座をぜひ開催してほしい。

(事務局)

ご意見を参考にしながら検討する。

(委員)

手話検定試験対策講座と手話通訳者統一試験対策講座の結果はどうなっているか。

(事務局)

手話検定試験はコミュニケーションをはかるテスト。受かっている確率が高いと思うが、追跡調査はしていない。2級を受けた1名は、ペーパーで落ちたと聞いているが、合格し

ている人が多いと思う。手話通訳者統一試験の合格発表は3月中旬。今年度は4名が受験している。

(委員)

予算をとって対策講座をしているので効果を上げてほしい。

(委員)

手話奉仕委員養成講座初級について、夜の受講者が増えている。手話言語条例の効果と想像できる。約50名の方々は、手話言語条例をきっかけに初級講座を受けるようになったのか状況を知りたい。

(事務局)

夜開講の初級講座で小学生が学んでいる。民生委員が手話の必要性を感じて学んでいる。宝塚市の職員が講座を受講している。手話言語条例ができて、今までとは明らかに違う層の人が増えていると感じる。

(事務局)

②市職員向けについて

新任職員研修と職員研修は障害福祉課でスケジュールを組んで行っている。平成29年度は手話言語条例ができたことを担当職員が保育所の所長会、幼稚園の園長会、学校の校長会等で説明。その結果、1つの保育所からぜひ研修に来てほしいと積極的な申し出があった。平成30年度についても同じように研修に来てほしいと依頼があれば職員を派遣する。平成29年度1月4日の仕事始め式でいつも市歌を歌うが今年は手話で行った。昼休みや時間外を利用して練習をした。何度も練習に来た職員や一般市民もおられた。歌う前に歌詞の一つ一つの意味を理解していただきながら、手話指導をしている。他に、障害福祉課、生活援護課では毎朝の朝礼でミニ手話学習をしている。引き続き職員に手話学習をしていきたい。平成30年度ももっと広がってほしい。

(委員)

聞こえない立場から一言。宝塚市の市歌に手話がついたことで、市歌と市歌の意味を初めて理解できて、非常にうれしい。また、ごみ収集車がメロディーだけを流していることを初めて知った。今までは市歌を流しているのは知っていたが、歌詞がついていると思っていた。これがきっかけでろう者にも宝塚市歌を知る方が増えたのはよかったと思う。聞こえない者の一人として非常にうれしい。もっと広がればいいと思う。

(委員)

②の平成30年に向けては？

(事務局)

予定しているのは新任職員、職員研修について。幼稚園や市民の集まりなどで依頼があれば行っていく。

(委員)

予算はあるのか？

(事務局)

職務時間中であれば、新たな予算は発生しない。

(委員)

市の職員研修は職員（設置通訳者）が行っている。また依頼があれば行くと聞いたが、実際の業務が回らなくなるのではないか。研修が増えれば、ろうの方が来ても窓口に職員がいなくなる心配がある。

(事務局)

平成29年度は回数が少なかった。要請が多くあればスケジュールを調整しながら行う。

(事務局)

設置通訳者にはもう一人のアルバイト職員がいる。設置通訳者がいなくてもその職員が対応できる。今後は、ろうの方も予約を取って来庁する考え方も必要かもしれない。

(委員)

職員（設置通訳者）が手話を教えることをPRしているのか。それとも口コミで行っているのか。

(事務局)

平成29年度手話言語条例の説明の際にPRしているが、平成30年度については未定。

(委員)

PRすれば忙しくなる。PRしなければ知っている人だけしか使えないことになる。皆さんの意見を聞きたい。

(事務局)

職員向けは内部、日程調整しやすい。職員向けは1時間半なので、その間はアルバイト職員が対応する。また、お待ちいただくことも可能なのではないか。希望があれば調整しながらやっていくことになる。

(委員)

アルバイト職員が休みの日に指導に行けば費用が発生するのか。

(事務局)

平成29年度は、職員（設置通訳者）が対応した。仮にアルバイト職員が出勤でない日に指導に行けば、費用が発生する。

(委員)

その分の予算はあるという意味と考えるとよいのか。

(事務局)

職員（設置通訳者）を想定していたので、そのための費用を確保しているわけではない。

(委員)

今の状況では予算はぎりぎりという意味で、あまりPRできない状況と理解したほうがよいのか。

(事務局)

職員（設置通訳者）が手話指導に出るときは、代わりにアルバイト職員が勤務日以外であっても出勤する状況にはなっていない。不在という状況になる。しかし、事務職ではあるが手話の資格のあるアルバイト職員が対応できる。

（委員）

職員（設置通訳者）の業務が増えることに対して市の配慮はあるのか。

（事務局）

職員の配置、講座のPRについてはすべて予算、体制の問題と認識している。平成30年度がどのような体制になるかはまだわからない。平成29年度は条例が施行され、設置通訳者二人の業務は、出張で外に出ること、時間外も含めて増加していることは認識している。それを踏まえて平成30年度の体制を皆さんの意見を参考に進めたい。障害福祉課としては平成30年度も平成29年度と同じことをしたいと思っている。申し込みがあれば受けたいし、職員研修も同じ回数をしたい。来年度の体制に向けて検討している。次回7月に報告したい。

（事務局）

③学校向けについて

平成29年度手話学習は小学校6校、中学校3校、高校4校（公立高校3校、私立高校1校）に行った。ろうあ協会の方にもご協力いただいた。小学校が確か全部で24校、中学校が12校あるのでまだ行っていない学校がある。高校は全部で6校あるので、まだ行っていない高校は公立が1校、私立が1校ある。継続して実施したい。平成30年度は増えていく可能性がある。

（委員）

来年度どのような計画があるのか。

（事務局）

学校向け予算は障害福祉課ではない。学校側がみんなの先生の予算や社協の助成で実施している。高校は県立高校で予算化し、非常勤講師で雇われた形で指導に行く。予算は県の教育委員会が出す。障害福祉課としては啓発を充実させ、より申し込んでもらえる体制を作っていくことが大事だ。学校に福祉の教育として、手話を選択してもらえようよう意識づけをし、件数を増やしていきたい。

（委員）

手話学習をしたい学校が多いと思う。難聴学級のある学校はコミュニケーションをとりたい、手話学習をしたいと要望がある。車いす体験を希望する学校もある。福祉の補助をもらっているので、どちらかを選択する。どこも手話をやってほしいとは思いますが、補助金の関係でどちらかを選ぶことになる。

（委員）

各学校に障害福祉課に連絡したら手話を学べることが周知されているのか。

（事務局）

手話言語条例ができ、パンフレットを配布しているのに実際には小学校の依頼が減っている。昨年の方が多かった。中学校が2校から1校増えた。手話言語条例のパンフレットを障害福祉課が配布したので、学校側は障害福祉課に連絡すればいいと思っていると思う。

(委員)

平成28年度、小学校は12校あった。半分になっている。学校の事情はあるにしろ、半分はひどいと感じる。もっとPRをして欲しい。

(委員)

宝塚市のある私立小学校ではクラブ活動の形で、茶道の先生が来るみたいに、ろうの先生や手話の先生が来てくれれば手話のクラブを立ち上げてもいいと聞いた。先生はボランティア、予算がない。私立の場合、補助なりのサポートはできるのか。

(事務局)

公立高校でも予算をとっていない。私立までも手が回らないのが実情。

(委員)

公立高校でやりたいところが少なく、私立でやりたいという思いがあっても、公立高校にまだ手が回ってないから、私立が後なのはどうかと思う。何かの機会があれば、頭に入れておいてほしい。

(事務局)

検討します。

(委員)

宝塚市難聴言語障害児親の会の立場でご意見はいかがか。

(委員)

小学校の手話指導が半分に減っているのはすごく残念。PRをもっとしてほしい。過去に行ったことのない学校に文章だけでなく、直接行ってでもPRをしたら、より広まるのではないかな。より増やしてほしい。何らかの手段を考えてほしい。

(委員)

ろう者の立場でいうと、聞こえない障害はみただけではわからない。それで、学校側の先生の記憶に残らないのかもしれない。視覚障がいの方や肢体障がいの方のほうが目立つので呼ばれる割合も多いと思う。だからこそ、私たちが余計に積極的に動かなくてはならないと思う。ご協力よろしく。

(事務局)

学校が1コマを手話学習に使うのは、カリキュラム上であれもこれもしなくてはいけない中、選択しにくい。逆に、パンフレットを配った関係で、パンフレットを通じて、朝のホームルームで話をしたから、わざわざ1時間かけて手話学習をしなくていいと考えたのかもしれない。障害福祉課には予算がない。予算があるので依頼してくださいとPRできない。もっと効率のいいやり方としては、先生の研修会を障害福祉課に依頼してもらい、障害福祉課が1回、手話のことを話に行く。先生から子どもたちに朝のホームルームなどで手話

のことを話してもらおう。必ず1時間のコマをとって手話指導をしなくてはならないという考え方ではなく、先生たちに手話をしてもらう。紀谷課長に先生向けの手話の研修会を何回か企画してもらい、簡単な手話指導と聞こえないのはどういうことかを理解していただき、先生から子どもたちに教えてもらえばいいのではと思う。

(委員)

以前、売布小学校で、先生方に教えたことがある。「これから生徒達にも今覚えた手話を教えます」ということがあった。これからこういうことがもっと増えればいいと思った。

(事務局)

④事業所向けについて

平成29年度の実績として、啓発事業の一貫で条例のパンフレットを商工会議所に依頼し、他のパンフレットと一緒に多くの事業所に配布してもらった。平成29年度は今のところ事業所への手話指導、PR等は依頼がない。

(委員)

宝塚ろうあ協会40周年記念事業をホテル若水で開催した。そのときホテルのフロントの方に簡単な手話を教えた。「お風呂」と「お金が150円」を手話で表してくれた。ろうあ者がフロントに行き、「聞こえない」ことを伝えると、フロントの方が「お風呂ですか?」と手話で表してくれた。そうしてもらおうとホッとす。こういう例が増えていけばいい。今回は残念ながら、事業所の胡中さんが欠席。これに関して次の機会にまた話したい。

(事務局)

⑤書籍について

平成29年度、小学校に「わたしたちの手話学習辞典」を4年生のクラス全部で68クラスと中学校の図書館に1冊ずつ、合わせて80冊を配布した。

(委員)

「わたしたちの手話辞典」を選んだ理由はなにか。

(事務局)

手話検定試験に直結していて、5級、4級、3級と単語に書いてある。程よい金額。ある程度初級向けの単語が載っていて、小学生でも開きやすい。そういう視点で選んだ。

(事務局)

平成30年度も予算をとっている。

(事務局)

平成30年度、啓発という形では今年度と同様に継続していきたい。予算の面では再度確認して、実施したい。

(事務局)

前回の会議で出た辞典の扱いについて、4年生で使用した本はそのまま4年生の学年に置いて、クラス増や、破損の場合は追加する。もしくは、図書館に置くという意見が出ていた。学習辞典は1の次に2が出てはいるが、今年度も80冊用意できるかは難しい。そう

いう考え方で、4年生に置いてもらっては修正し、予算があるなら図書館に1冊置く形にしたい。

(事務局)

まちづくり協議会など地域からの依頼について

平成29年度は実績4件。予算は障害福祉課支払い。平成30年度も依頼があれば対応したい。

(委員)

まちづくり協議会は宝塚市内に何か所あるのか。

(事務局)

ブロックは7つ。小学校単位。正確な数字はわからない。平成30年度は今まで依頼が出ていない民生委員、自治会等の地域の依頼があれば対応していきたい。

(委員)

平成29年度の依頼は4件。それはPRした上での結果といえるか。

(事務局)

パンフレットをみていないのかわからないが、興味があって依頼してくれたと思う。課題としては、講師謝礼の問題がある。手話通訳料は障害福祉課が予算を出した。ただ、まちづくり協議会の手話指導に講師謝礼は出ない。地域から依頼があった場合、講師の謝礼は今のところは、まちづくり協議会なり地域の人が自分たちのお金を出している。通訳料も加えると負担が大きいので、ろう者の社会参加の視点から、障害福祉課が通訳料は支払っている。3000円くらいの予算を負担してもらえれば、通訳料は障害福祉課で持つとPRしていきたい。

(委員)

④の事業所向けも、事業所の人たちが手話を勉強したいとき、講師料は事業所負担になるのか。

(事務局)

今はそう。例えば、宝塚市立病院が事務員向けの資質向上のため、職員研修の位置づけで手話講座をしたが、事業所が費用を負担した。市民向けは障害福祉課が通訳費用の予算だけはとっているが、まだ、事業所や学校向けには予算をとっていない。

(委員)

手話言語条例は、手話を広げる目的の条例なので、手話が広がるようにしてほしい。手話は言語だと言っていないながら、言語を学ぶのにお金を払わなくてはならないという変なところがある。学ぶ側にどれだけメリットがあるのか。それならいいですと言われてしまうと足元を見られてしまう。ぜひ手話が広がるようにしてほしい。

(委員)

実際に事業所でもまちづくり協議会でも、いくらくらいで、時間がどのくらいで、どんなことを教えてくれるかがわかる例があるといい。事業所やまちづくり協議会が、どれくら

い的人数を集めたら来てもらえるのか、どのくらい時間があればいいのかがわからないまままだと言出しにくいのではないか。パンフレットを渡すだけでなく、カルチャーセンターみたいに1時間なり1時間半で何人くらい集まればこういうことができるかと大まかなものがあれば頼みやすい。依頼先は障害福祉課等、参考になるものがあれば自治会、事業所、会社、事務所、店舗等でも頼みやすいのではないか。

(委員)

大阪ではハローワークで障がい者雇用をしている会社を中心に手話の無料の講習を呼びかけていた。ハローワークでは、人事の人やいろんな会社の人が集まり、交流ができる。

(事務局)

はじめて聞いた意見でもあり、今すぐに実施はできないが、検討していきたい。手話講座を開催するかを、今日欠席の方も含めて事業者さんとも相談したい。

(委員)

宝塚市にはハローワークがない。宝塚市で企業の方に集まってもらい何かできればと思うがご意見をいただきたい。

(事務局)

商工会議所の方に集まってもらうとか、機関紙、ホームページなどに情報を載せたりすれば、開催できるのではと考える。予算の問題もあるので、相談しながら検討する。

(委員)

平成30年度に向けて、前向きに検討してもらえるという意味に捉えてよいか。

(事務局)

パンフレットをまちづくり協議会や民生委員に配るときに、この様な単価で、このような手話講座ができ、通訳料は障害福祉課が支払うというチラシを配布する。そうすることで啓発につながると思う。

(委員)

平成30年度チラシを配布する予定はあるか。

(事務局)

一つの手立てとして考えている。実行できるかは障害福祉課の中で考慮したい。

(委員)

個人的にはぜひ、やっていただきたい。情報提供は必要だと思う。

(事務局)

(2) 啓発について

①パンフレットについて

平成29年度はパンフレットを3万部印刷した。小学校4年生～中学3年生まで配布した。医師会、歯科医師会、薬剤師会、商工会議所等に配布した。平成30年度は増刷をし、まだ配られていない自治会、民生委員などに配布していきたい。

(委員)

3万部印刷、配布は素晴らしい。宝塚市民の人口は23万人、その中で3万部はとても沢山だと思っている。毎年それぐらいは配ってほしい。よろしく。

(事務局)

3万部印刷し、配布した残りは1万1千。さらに配っていく。

(委員)

1万1千残っているのは、配る場所がないということか。

(事務局)

3万部は増刷で印刷した。それ以前に印刷した分もあると思う。平成30年度に向けて、自治会、住民ネットワーク会議でも配布していきたい。福祉関係のイベントで同封していただくや、障害福祉課や部内のイベント等で配布していきたい。平成30年度も約3万部の増刷を考えている。

(委員)

毎年1月17日末広公園で防災関連のイベントをしている。そこでも配ってはどうか。

(事務局)

防災関連の訓練では配れない。例年1月17日は末広での祈祷や記帳をしている。そこでの配布は難しい。何周年かの大きなイベントをするときは配布できると思う。福祉に関わらず、いろんな機会パンフレットを配布していきたい。

(委員)

自治会で配布したいときは、障害福祉課に貰いにいけば、自由に配れるのか。友達に配るとかも含めて、常時用意してあるという認識でよいのか。

(事務局)

はい。取りに来られた方には説明しながら配布したい。

(委員)

来年度も4年生に配布するのか。

(事務局)

来年度は新4年生に配布。

(委員)

パンフレットは小学校4年生の生徒に配布する。「家に持って帰り、家族と一緒にみてね」と先生から言ってもらって配ったらいいと思う。

(委員)

このパンフレットはいいと思う。パンフレットの内容を下敷きとかはできないか。交通安全の下敷きみたいに。下敷きなら何度も見れる。予算的にどうか。

(事務局)

今年度は印刷代で予算をとっているが、見積もりを取ってみて、参考にしたい。

(委員)

下敷きだと代金は高くなるのか。

(事務局)

下敷きは絵がついていて気が散って、逆に勉強に集中できないのではと思う。パンフレットにはパンフレットの機能がある。無地の下敷きでも100円する。1万5000枚作り、子どもたちに配布するのは予算がたくさんかかると思う。パンフレットを自治会に回覧してもらいたいと思う。宝塚には23万人、9万世帯ある。すべての人が目にするようにしたい。下敷きは子どもたちにとって本当に必要だろうか。

(委員)

回覧版で回す場合は、回覧か配布かどういう形になるのか。

(事務局)

1枚ずつだと9万枚必要なので回覧になる。希望者には配布。一枚ずつ取ってくださいは厳しい。

(委員)

回覧版での配布物は、時間をかけてみるができる。回覧はさらっと読んで終わりになる。部数の関係もあるが、「ほしい人は言ってください」と載せてほしい。

(事務局)

②ホームページ整備について

宝塚市のホームページから順番に検索していく。宝塚市>健康福祉>手話、「手話」の項目を新設した。手話が表に出やすいようにした。「知ってよ！宝塚」3月号で12月に行った第1回宝塚市手話言語発表会の内容を放映予定。平成30年度に向けても、ホームページを改定なり、更新していきたい。

(委員)

ホームページは大切、たくさんの方が目にする。より充実した内容にしてほしい。

(事務局)

(3)宝塚市手話言語発表会について

平成29年12月3日に第1回手話言語発表会を開催した。会場は駅が近く良かった。内容も良かった。幅広い年齢層の方が参加してくれた。アンケートの結果は最後のページにある。毎年開催したいと思っていたが、第2回の時期については、平成30年度の時期をずらして開催したい。隔年の開催とかはどうか。当初は毎年開催を掲げていたが、平成31年度以降に開催したい。

(委員)

今回だけはしないという考えなのか、これからはずっと2年に1回という考えなのか。

(事務局)

第2回の開催も未定。それ以降のことも今は答えられない。

(事務局)

隔年といっても、2年に1回かどうかもまだ未定。続けていきたいと思い冒頭に第1回をつけた。第2回と継続したいと思っている。平成30年度は開催を見送り、平成31年度

の開催に向けて検討していきたい。

(委員)

個人的には毎年開催を想像していた。準備が大変、他の行事がある、お金、この3つの問題なのか。

(事務局)

障害福祉課のイベントをたくさん抱えている中で、今回は大変だった。もう少し間隔をあけて開催したい。少し考える時間がほしい。

(事務局)

準備や予算の問題だけではない。毎年同じ行事を同じように繰り返すのではなく、違う形で手話言語の啓発を充実させたりしたい。第2回に向けて、平成31年度以降にはなるがいろいろ検討していきたい。

(委員)

次回の会議で方針を提示するのか。

(事務局)

今回は7月だが、提示していきたい。

(委員)

平成30年度に発表会はしないが、別の形では計画があるという認識でよいか。サークルで協力してくれた人たちが、今年度は何を発表しようかと考えていたと思う。発表会としてはないが、他の何かはあるのか。

(事務局)

それに代わるもの、講演会はあると考えている。

(委員)

講演会なら、予算は大体どれくらいを考えているのか。

(事務局)

手話言語発表会はそんなに高額な予算はかかっていない。講演会は講師を呼んで、参加者は無償で見ただけで予定。予算は講師料と賄いでそんなに高額にはならない。平成30年度の予算はほぼ確定している。手話言語発表会を実施する予定で進めていた予算を生かして使っていく。この場で金額を申し上げることはできない。啓発を充実させるなどにも割り振る。全体の予算は決まっているが、講演会の上限としては決まっていない。本会議が終われば公表できる。

(委員)

この会議で来年度の意向を話し合うのではなく、障害福祉課が決めるということか。

(事務局)

啓発については今まで話し合ってきた内容をより充実したもので予算を付けた。第2回手話言語発表会に向け予算取りをした中で、平成30年度は行わないことになった。その予算をどう生かしていくかは障害福祉課で進めていく。講演会はある程度の目途があるので

こちらで進めていく。啓発や今日話し合ったところは意見を踏まえながら進める。

(事務局)

この会で手話言語施策をどう進めていくかご意見をいただいて進めている。先ほど事務局が手話言語発表会の隔年開催は準備、お金だけの問題ではないといった。実際はそういう面もある。11月末に障害者週間を実施した。事務局の体制は正直苦しい。学校への関係、事業者への啓発。手話言語条例が制定されたので、もっと予算や人員体制をつけてやっていきたいが、本市の財政状況が厳しい。先日、行革の委員会が行われたが、今後、5年間で50億円不足。行革に取り組み、事業の見直しで30億円カバーする。それでも20億円不足。厳しい財政状況がある。予算をきちんと取り、こんな事業をしていると言いたいが、知恵を絞り、ご協力いただき何とか前に進めたい。どう啓発していくのか、イベントをやっていくのがいいのか、いいのであれば、事務局で検討していく。次にどうつなげていくかもある。効果などを検討してやっていきたい。来年度は厳しいと考えている。

(委員)

個人的に手話言語発表会について反省がある。私は実行委員だったが、あまりにも障害福祉課に任せすぎた。協力が足りなかったのを反省している。障害福祉課の負担になったのではと思う。実行委員としてこれからはもっと協力する。予算と言われると弱いが、もっと効果的な啓発があればいい。手話を学ぶ団体で1年に1回発表することによってモチベーションが上がる部分があると思う。バランスが難しいが、どう思うか。

(委員)

発表会の意義は素晴らしかった。発表する側も障害福祉課もばたばたの準備だったが、多くの人が集まり、大成功だったと思う。それが平成30年度は、発表会ができないのはよくわかった。平成31年度に向かつてはやろうという思いも分かった。なくならない、続いていくことをきちんと確認したい。サークルの人たちに報告しなければならない。

(事務局)

発表会は皆さんのモチベーションがあがる。啓発の仕方としてイベントは意義がある。事務局は皆さんの意向に沿ってやっていく。ただ、事務局側の体制が弱いので申し訳ないが、皆さんの期待に沿えないところもある。皆さんがやっていくべきだと思うのであれば、どうしたらやっていけるのか考えていきたい。ただ、事務局として来年度開催は難しい。

(委員)

ろうあ協会として、一番大事なことは市民の方に手話を広め、知ってもらうことだと考えている。手話言語発表会だけに拘るのでなく、他に効果的な方法があればそれもいい。毎年手話言語発表会を楽しみにしているグループもあれば、毎年は重荷になっているグループもあると思う。個人的にはなくさないことが大事だと思う。毎年拘ってはいないが、絶対に続けてほしい。

(事務局)

先日初級講座で特別講義があった。薬剤師さんの話を聞いて、手話の必要性を初めて理解

できた。今までは手話が広まった方がいいのはわかっていたが、最終的には書けばいいと思っていた。この講演を大きな会場でぜひみんなに聞いてほしいと感想があった。講演会、発表会を一年交代で計画できればそれはそれで意味があると思う。時期の問題もある。今回は12月に無理やりやった。今年度の8月に開催は非常に難しい。だけど来年の8月なら計画を立ててやることができるかと思う。できれば発表会と講演会を交互に行えたらいい。サークルの人にも、だから協力してねとお願いしたらいいと思う。

(委員)

手話サークル連絡会のメンバーは100人いる。その人たちは今年度頑張った。来年度もやると思っている。私も手話言語発表会だけが手話を広げることではないと思う。ネタも尽きてしまうこともある。2年に1回は新鮮味があるかもしれない。形は変わるが実際には続いていくことが分かれば、できると思う。重荷になっていることも確かだが、はっきりしてほしい。7月までわからないでは困る。講演会の講師は決まっているのか。

(事務局)

委員会のなかで、手話言語発表会はやるべきということですね。事務局はそれに沿ってやっていく。啓発の一つの方法としてやっていくべきだということであれば、事務局として検討する。

(委員)

宝塚市が手話を広げたいという気持ちは受け止めた。せめて1年に1回、発表会であれ、講演会であれ、とにかく大きな行事をやってほしい。形にはこだわらない。第1回とあるので2年に1回でも3年に1回でも手話言語発表会を続けてほしい。

(事務局)

次回の日程の確認。平成30年7月19日木曜日。場所は未定。時間は午後6時半から2時間程度。場所は決まり次第お知らせします。